

1. 国の推計

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計及び内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の推計によると、多摩市の人口は2035（令和17）年には132,189人、2065（令和47）年には99,479人（平成27年比でマイナス32%）まで減少すると見込まれています。

2065（令和47）年の生産年齢人口（15～64歳）、年少人口（0～14歳）は2015（平成27）年比で約4割減少する一方で、老年人口（65歳以上）は平成27年とほぼ同数になると見込まれています。

【人口動態における課題】

- 将来的には人口が大幅に減少（50年後の総人口は32%減）
 - ・2015（平成27）年の14.6万人から2065（令和47）年には10万人まで減少
- 高齢化の急速な進行（50年後は5人に2人が高齢者）
 - ・2065（令和47）年の高齢化率は39.1%まで上昇
- 生産年齢人口の減少と少子化（出生率は全国平均を大きく下回る）
 - ・2065（令和47）年には年少・生産年齢人口は2015（平成27）年比で約4割減少
 - ・2019（令和元）年の多摩市の合計特殊出生率は1.15と全国平均の1.36を大きく下回る水準

2. 多摩市の目指すべき将来の方向

【若い世代の流入と出生数の増加】

人口の減少を抑制するだけでなく、子育て世帯の流入をさらに図るなど、年齢層、世帯層を意識した取り組みを進めることで、人口構造のバランス悪化を緩和する。

【健幸まちづくりのさらなる推進】

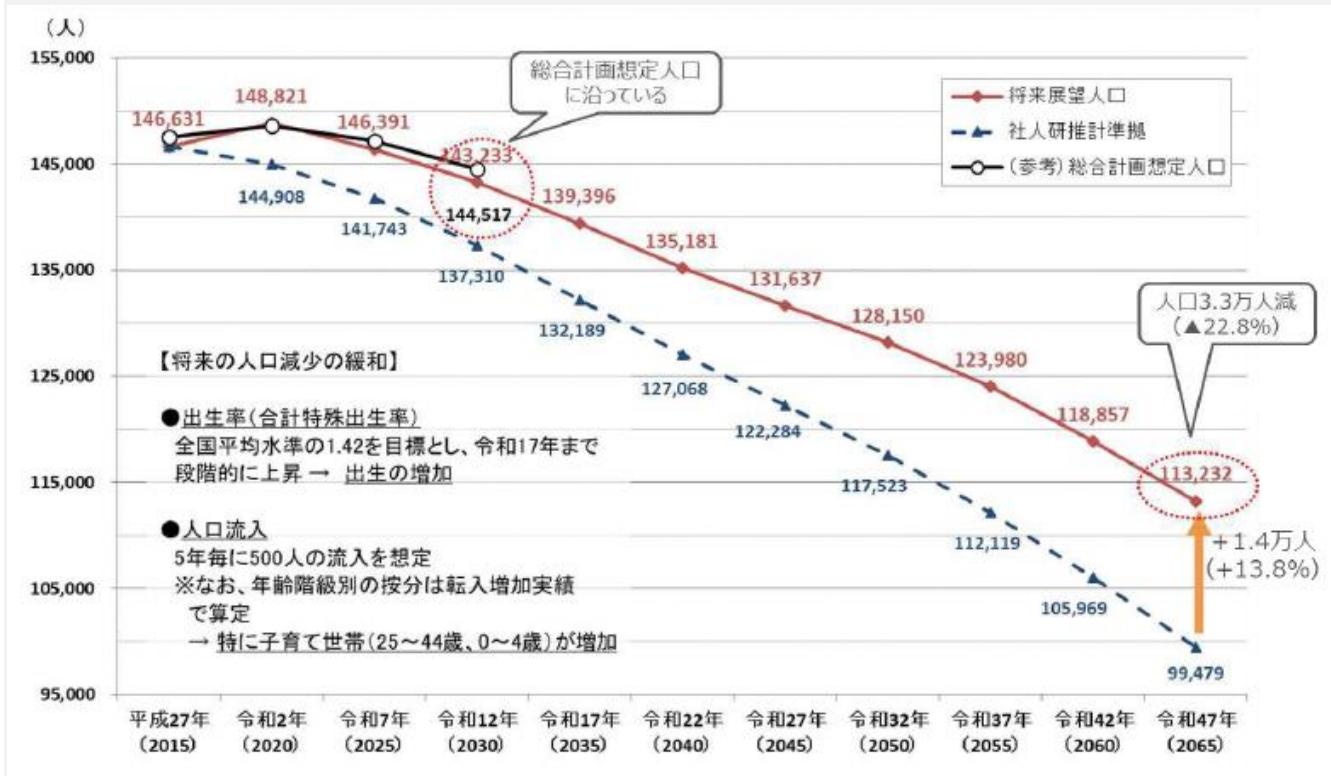
これまでの健幸まちづくりの取組を発展させていくとともに、「超高齢社会への挑戦」「若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり」「市民・地域と行政との新たな協働の仕組みづくり」の3つの重点課題に取り組む。



将来展望人口 50年後の2065（令和47）年の人口：11.3万人

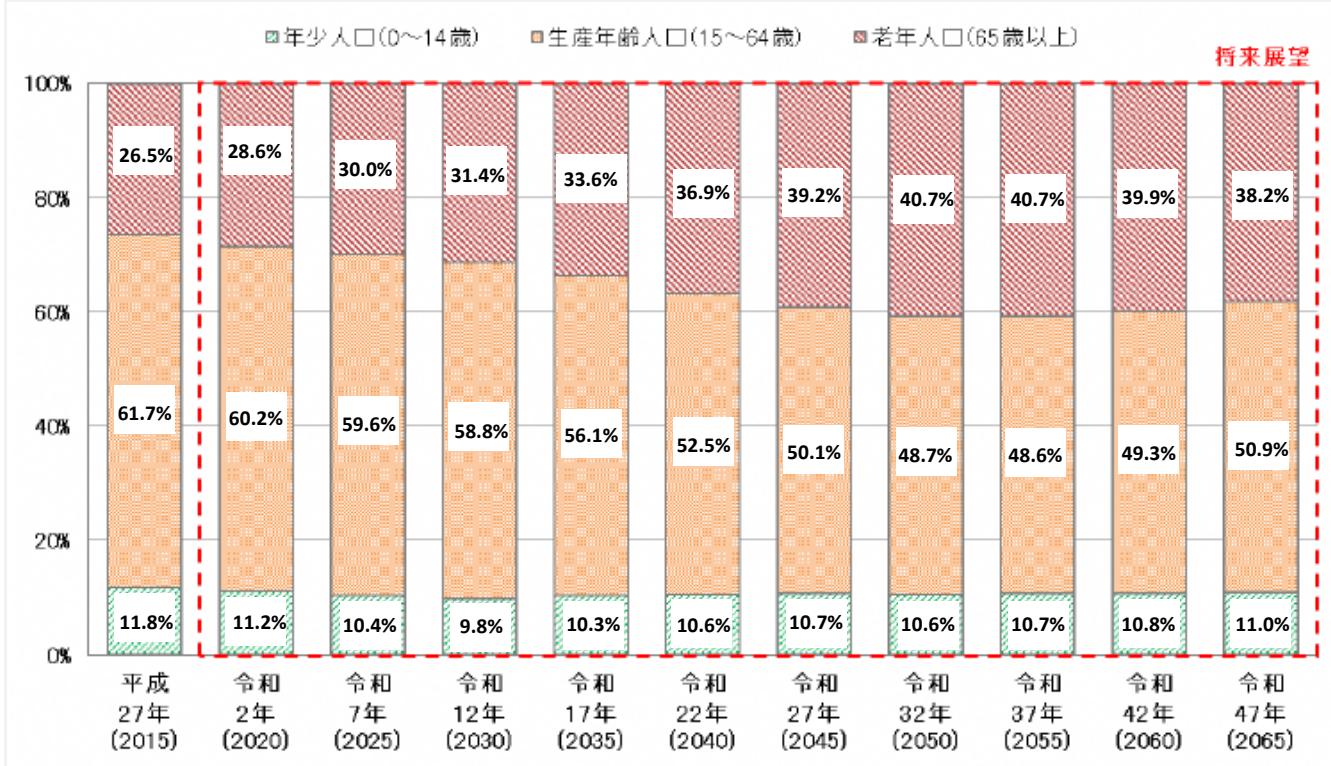
3. 多摩市の推計（多摩市人口ビジョン）

■将来展望人口（目指すべき将来人口）



※第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略

■人口構成割合（3分割）



※第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略

4. コロナ禍での多摩市の転入数・転出数

【令和2年の多摩市の転入数・転出者数】

- 転入人口は、令和2年とその前5年間と比較すると10%弱の減少
 - ・ 2015（平成27）年から2019（令和元）年の5年間平均7,551名に対して、令和2年は6,834名で90.5%となっています。（右上図）
- 転出人口は、同様の期間で見ると5%弱の減少
 - ・ 上記と同様に5年間平均6,974人に対して、令和2年は6,633人で95.1%となっています。

【多摩市の人口流出入のボリュームゾーン】

多摩市の人口流入・流出の多くは、20歳代前半から、40歳代前半の人が多くっており就職、転勤、子育てのため住み替えが中心となっていると考えられます（右下図）。

昨年、緊急事態宣言は、4月7日から5月25日まで発令されており、各企業とも対応を検討していた時期にあたります。テレワーク等も試行しリモート環境の整備を図っていたと考えられます。

また、学校も登校が控えられるなど、翌年の入学のための転居も抑制されていた可能性があります。

【多摩市の人口推移（日本人・外国人）】

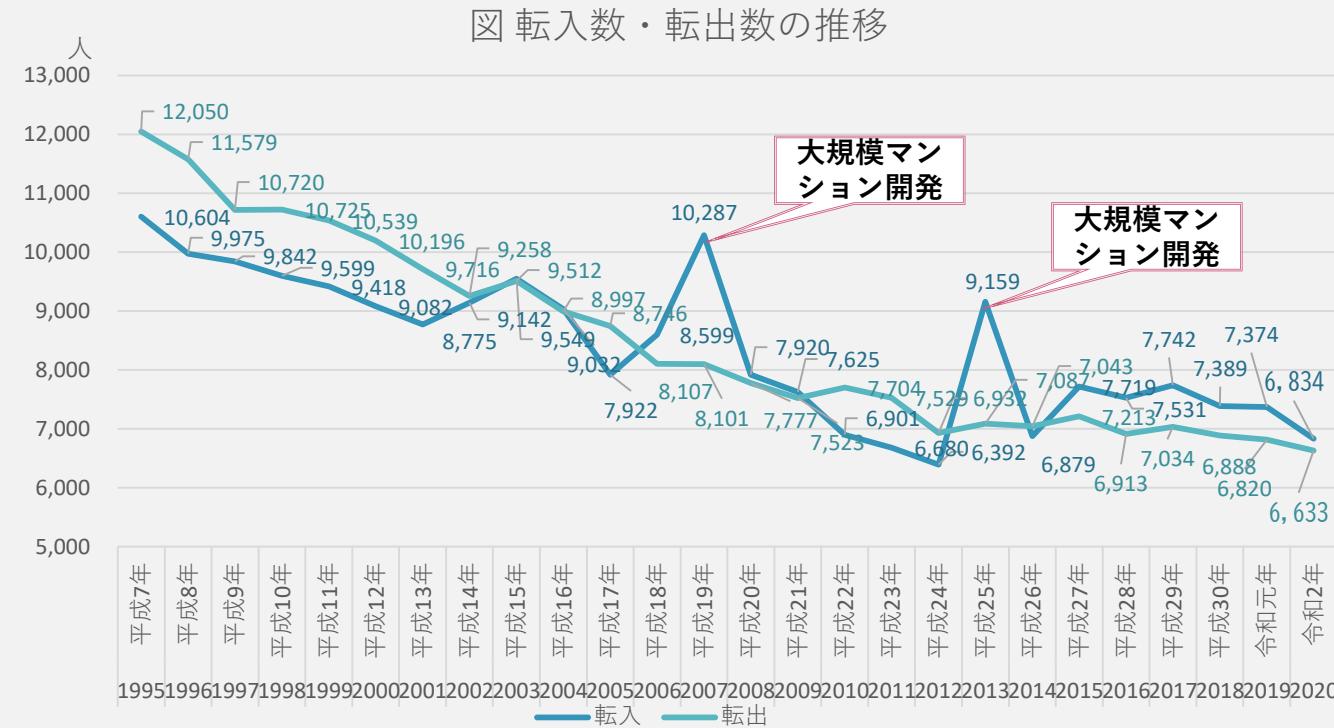
- 日本人は、微減傾向の継続
 - ・ 2019（令和元）年から微減傾向が継続しています。
- 外国人は、増加傾向から令和3年に減少
 - ・ 2020（令和2）年まで増加傾向でしたが、令和3年に減少しました。

■過去5年の多摩市の人口推移（日本人・外国人）



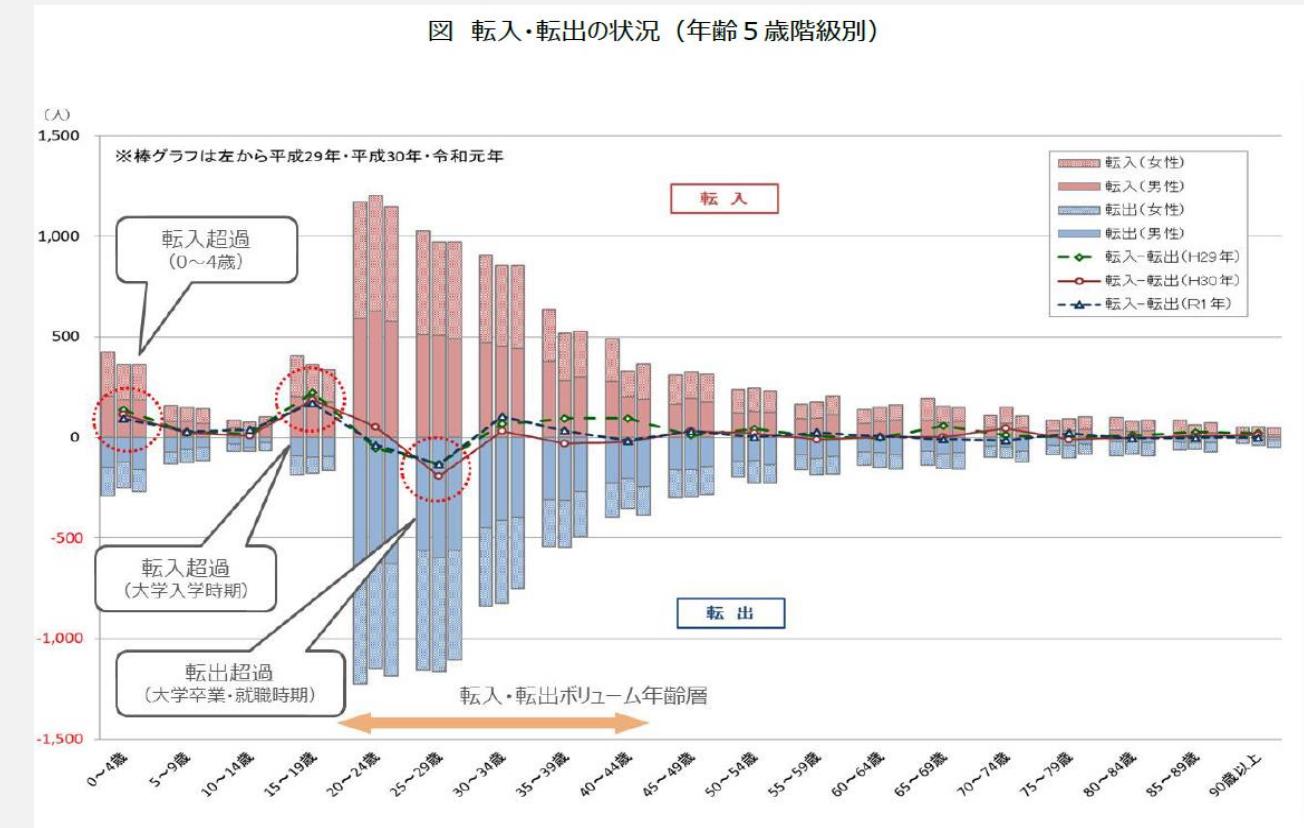
※住民基本台帳（各年1月1日現在）

■多摩市の転入数・転出数の推移



※第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の図に令和2年データを補足

■年齢別社会移動（5歳階級別）



※第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略